

CREAMY CLEANSING PREPARATION FOR SKIN

Publication number: JP2003183152

Publication date: 2003-07-03

Inventor: HOSHINA KURA

Applicant: KANEBO LTD

Classification:

- international: **A61K8/00; A61K8/36; A61K8/44; A61K8/46; A61K8/86;
A61Q19/10; A61K8/00; A61K8/30; A61K8/72;
A61Q19/10; (IPC1-7): A61K7/50**

- European:

Application number: JP20010388921 20011221

Priority number(s): JP20010388921 20011221

[Report a data error here](#)

Abstract of JP2003183152

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a cleansing preparation for the skin which gives a mild feeling to the skin, and has an excellent frothing ability and lather quality, as well as it possesses an excellent feeling of use.

SOLUTION: This creamy cleansing preparation for the skin is characterized in that it contains (A) an N-acyl acidic amino acid salt, (B) a sulfosuccinic acid type surface active agent, and (C) an 8-22C higher fatty acid salt, and has pH not higher than 7.0, and further it contains (D) a polyethylene glycol in an amount of 5 to 20 mass% on the basis of the whole amount of the creamy cleansing preparation for the skin.

COPYRIGHT: (C)2003,JPO

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2003-183152

(P2003-183152A)

(43) 公開日 平成15年7月3日(2003.7.3)

(51) Int.Cl.⁷

A 6 1 K 7/50

識別記号

F I

A 6 1 K 7/50

キーワード(参考)

4 C 0 8 3

審査請求 有 請求項の数 2 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2001-388921(P2001-388921)

(22) 出願日 平成13年12月21日(2001.12.21)

(71) 出願人 000000952

カネボウ株式会社

東京都墨田区墨田五丁目17番4号

(72) 発明者 保科 蔵

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 カ

ネボウ株式会社化粧品研究所内

Fターム(参考) 4C083 AB332 AB442 AC122 AC241

AC242 AC302 AC422 AC432

AC482 AC532 AC661 AC662

AC791 AC792 AD041 AD042

AD532 BB41 CC22 CC23

DD22 DD23 DD28 DD31 EE01

EE06 EE07 EE10

(54) 【発明の名称】 クリーム状皮膚洗浄料

(57) 【要約】

【課題】 皮膚に対してマイルドで、しかも優れた起泡力、泡質を有し、且つ使用感に優れた皮膚洗浄料を提供する。

【解決手段】 (A) N-アシル酸性アミノ酸塩、(B) スルホコハク酸型界面活性剤、及び(C) 炭素原子数8~22の高級脂肪酸塩を含有し、且つpHが7.0以下であることを特徴とするクリーム状皮膚洗浄料、並びに、更に(D) ポリエチレングリコールを、クリーム状皮膚洗浄料の総量を基準として5~20質量%含有することを特徴とする前記のクリーム状皮膚洗浄料。

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 (A) N-アシル酸性アミノ酸塩、
(B) スルホコハク酸型界面活性剤、及び (C) 炭素原子数 8～22 の高級脂肪酸塩を含有し、且つ pH が 7.0 以下であることを特徴とするクリーム状皮膚洗浄料。

【請求項 2】 更に (D) ポリエチレングリコールを、
クリーム状皮膚洗浄料の総量を基準として 5～20 質量%含有することを特徴とする請求項 1 記載のクリーム状皮膚洗浄料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、皮膚に対してマイルドで、しかも優れた起泡力、泡質を有し、且つ使用感に優れた弱酸性の皮膚洗浄料に関する。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】従来、洗顔料やボディソープ等の皮膚洗浄料としては、高級脂肪酸塩を主成分として含有するアルカリ性の皮膚洗浄料が広く用いられてきた。これらの皮膚洗浄料は泡立ちに優れ、さっぱりとした感触が得られるものの、使用後肌がつっぱる、きしむといった使用感において問題があった。

【0003】また近年、多くの弱酸性の皮膚洗浄料が上市されており、皮膚に対して刺激が少ない等の理由から愛用者が増えているが、従来のアルカリ性の皮膚洗浄料と比較して起泡力が悪く、しかもコシの無い泡で泡質も悪い。また洗い流した後、べとつき、ぬるつきを感じる人が多いのが現状である。

【0004】このように皮膚に対してマイルドで、しかも優れた起泡力、泡質を有し、且つ使用感に優れた皮膚洗浄料は未だ得られていない。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記事情に鑑み、本発明者は鋭意研究の結果、N-アシル酸性アミノ酸塩、スルホコハク酸型界面活性剤、及び炭素原子数 8～22 の高級脂肪酸塩を含有し、且つ pH を 7.0 以下とすることにより、皮膚に対してマイルドで、しかも優れた起泡力、泡質を有し、且つ使用感に優れた皮膚洗浄料が得られること、そして更にポリエチレングリコールを、皮膚洗浄料の総量を基準として 5～20 質量%配合することにより、潤滑性及び剤型の安定性に優れ、且つ硬さを任意に調整できるクリーム状皮膚洗浄料が得られることを見出し、本発明を完成するに至った。

【0006】すなわち本発明の請求項 1 は、(A) N-アシル酸性アミノ酸塩、(B) スルホコハク酸型界面活性剤、及び (C) 炭素原子数 8～22 の高級脂肪酸塩を含有し、且つ pH が 7.0 以下であることを特徴とするクリーム状皮膚洗浄料である。

【0007】また本発明の請求項 2 は、更に (D) ポリエチレングリコールを、クリーム状皮膚洗浄料の総量を

基準として 5～20 質量%含有することを特徴とする請求項 1 記載のクリーム状皮膚洗浄料である。

【0008】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を詳説する。

【0009】本発明に用いられる (A) N-アシル酸性アミノ酸塩の酸性アミノ酸としては、グルタミン酸、アスパラギン酸等を使用することができるが、グルタミン酸を用いた場合、起泡力、泡質に優れ好ましい。

10 【0010】本発明に用いられる (A) N-アシル酸性アミノ酸塩のアシル基は、炭素原子数 8～22 の飽和又は不飽和脂肪酸のアシル残基であり、例えば、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、オレイン酸等の単一組成の脂肪酸のアシル残基が挙げられ、この他にヤシ油脂肪酸、牛脂脂肪酸、硬化牛脂脂肪酸、ヒマシ油脂肪酸、オリーブ油脂肪酸、パーム油脂肪酸等の天然より得られる混合脂肪酸、あるいは合成により得られる脂肪酸（分岐鎖脂肪酸を含む）のアシル残基であってもよい。

20 【0011】本発明に用いられる (A) N-アシル酸性アミノ酸塩の塩基成分としては、ナトリウム、カリウム等のアルカリ金属、マグネシウム、カルシウム等のアルカリ土類金属、モノエタノールアミン、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン、2-アミノ-2-メチル-1-プロパノール、2-アミノ-2-メチル-1, 3-プロパンジオール等の有機アミン、アンモニア等の無機アミン、リジン、オルニチン、アルギニン等の塩基性アミノ酸等を挙げられるが、アルカリ金属を選択した場合、剤型をクリーム状に調製し易く好ましい。これら塩基成分は、1 種単独又は 2 種以上を組み合わせる用いることができる。

30 【0012】本発明に用いられる (A) N-アシル酸性アミノ酸塩の好適な例としては、N-ラウロイルグルタミン酸ナトリウム、N-ラウロイルグルタミン酸カリウム、N-ミリスチルグルタミン酸ナトリウム、N-ミリスチルグルタミン酸カリウム、N-ステアロイルグルタミン酸ナトリウム、N-ステアロイルグルタミン酸カリウムを挙げることができ、これらは 1 種単独又は 2 種以上を組み合わせる用いることができる。

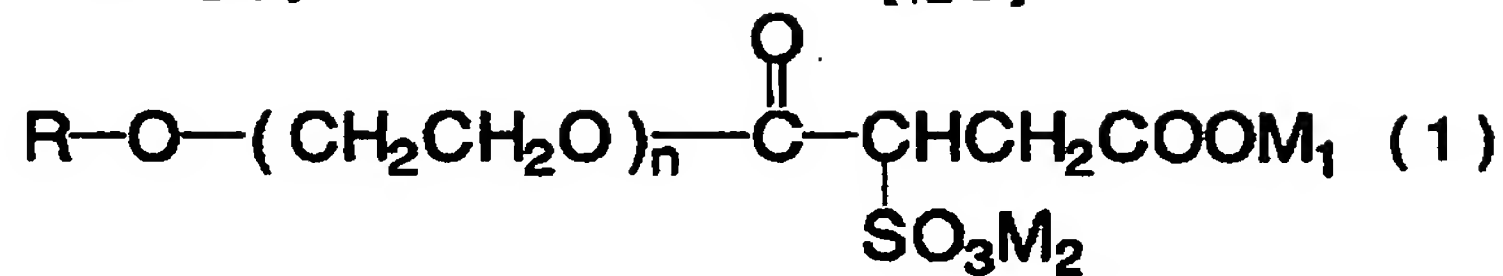
40 【0013】本発明に用いられる (A) N-アシル酸性アミノ酸塩の配合量は、クリーム状皮膚洗浄料の総量を基準として、1～25 質量%（以下、%と略記する）が好ましく、更に好ましくは 5～20 % である。N-アシル酸性アミノ酸塩の配合量が 1 % 未満であると、泡立ち、洗浄力が不十分な場合があり、また 25 % を超えて配合すると、剤型をクリーム状に調製するのが困難な場合がある。

50 【0014】本発明に用いられる (B) スルホコハク酸型界面活性剤としては、下記一般式 (1) で表される、高級アルコール又はそのエトキシレートのスルホコハク

酸エステル及びその塩が挙げられ、1種単独又は2種以上を組み合わせる用いることができる。

* 【0015】

* 【化1】



(式中、Rは炭素原子数8～22の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を示し、M₁及びM₂はそれぞれ独立して、水素原子、アルカリ金属、アルカリ土類金属、有機アミン、及び無機アミンから選ばれる陽イオンを示し、そしてnは0～20の整数を示す。)

【0016】本発明に用いられる(B)スルホコハク酸型界面活性剤の好適な例としては、スルホコハク酸モノアルキルエステル塩を挙げることができ、特にスルホコハク酸ラウリル二ナトリウムが好ましい。

【0017】本発明に用いられる(B)スルホコハク酸型界面活性剤の配合量は、クリーム状皮膚洗浄料の総量を基準として、0.1～15%が好ましく、更に好ましくは1～10%である。スルホコハク酸型界面活性剤の配合量が0.1%未満であると、本発明の効果が十分に得られない場合があり、また15%を超えて配合すると、剤型をクリーム状に調製するのが困難な場合がある。

【0018】本発明に用いられる(C)炭素原子数8～22の高級脂肪酸塩は、直鎖又は分岐鎖のいずれでもよく、また飽和又は不飽和のいずれでもよい。好適な例としては、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ヤシ油脂肪酸、硬化牛脂脂肪酸、ベヘニン酸、オレイン酸等の塩を挙げることができる。

【0019】本発明に用いられる(C)炭素原子数8～22の高級脂肪酸塩の塩基成分としては、ナトリウム、カリウム等のアルカリ金属、マグネシウム、カルシウム等のアルカリ土類金属、モノエタノールアミン、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン、2-アミノ-2-メチル-1-プロパノール、2-アミノ-2-メチル-1,3-プロパンジオール等の有機アミン、アンモニア等の無機アミン、リジン、オルニチン、アルギニン等の塩基性アミノ酸等を挙げることができる。これら塩基成分は、1種単独又は2種以上を組み合わせる用いることができる。

【0020】本発明に用いられる(C)炭素原子数8～22の高級脂肪酸塩の好適な例としては、ラウリン酸ナトリウム、ラウリン酸カリウム、ミリスチン酸ナトリウム、ミリスチン酸カリウム、パルミチン酸ナトリウム、パルミチン酸カリウム、ステアリン酸ナトリウム、ステアリン酸カリウム等を挙げることができ、特にラウリン酸カリウムは泡立ちに優れ、また剤型をクリーム状に調製し易く好ましい。

【0021】また本発明の(C)炭素原子数8～22の

高級脂肪酸塩は、1種単独又は2種以上を組み合わせる用いることができる。

【0022】本発明に用いられる(C)炭素原子数8～22の高級脂肪酸塩の配合量は、クリーム状皮膚洗浄料の総量を基準として、0.1～20%が好ましく、更に好ましくは1～10%である。炭素原子数8～22の高級脂肪酸塩の配合量が0.1%未満であると、本発明の効果が十分に得られない場合があり、また20%を超えて配合すると、使用後、つっぱり感やきしみ感を感じる場合があり、好ましくない。

【0023】本発明に用いられる(D)ポリエチレングリコールは公知の化合物であり、水溶性で優れた潤滑性を有している。本発明のクリーム状皮膚洗浄料には、任意の平均分子量のものを使用することができ、皮膚洗浄料の硬さ、潤滑性をポリエチレングリコールの平均分子量及び配合量により調整することが可能である。

【0024】本発明に用いられる(D)ポリエチレングリコールの配合量は、クリーム状皮膚洗浄料の総量を基準として、5～20%であり、好ましくは8～15%である。ポリエチレングリコールの配合量が5%未満であると、十分な潤滑性が得られない場合があり、また20%を超えて配合すると、剤型をクリーム状に調製するのが困難な場合がある。

【0025】本発明のクリーム状皮膚洗浄剤は、クエン酸、リンゴ酸、コハク酸、酒石酸、乳酸、酢酸又はこれらの塩等の緩衝剤を添加する等の方法で、pH7.0以下、好ましくはpH4.0～6.9、特に好ましくはpH6.0～6.8の範囲内に調整することができる。

【0026】また本発明のクリーム状皮膚洗浄料には、上記成分の他に、泡質調整剤として、他のアニオン性界面活性剤及びノニオン性界面活性剤を併用できる。更に基剤として多価アルコール(但し、ポリエチレングリコールを除く)、ワックス、顔料等、また防腐剤、金属封鎖剤、植物抽出液、色素、香料等を本発明の効果を損なわない範囲で配合することができる。

【0027】また本発明のクリーム状皮膚洗浄料は、常法に従って製造することができ、顔面又は口唇等に適用される。

【0028】

【実施例】次に、実施例によって本発明を更に詳細に説明するが、本発明はこれらに限定されるものではない。

【0029】実施例1及び比較例1、2

下記の組成のクリーム状皮膚洗浄料を、常法に従い調製

した。そして女性専門パネラー20名を対照に実用試験を行い、各試験項目（扱いやすさ、水への溶けやすさ、泡の量、泡のきめ、泡のコシ、泡立ちの速さ、泡立ちの持続、ぬるつき、きしみ感、つっぱり感、さっぱり感、しっとり感、皮膜感）について5段階評価し、更にその平均点から下記基準により判定した。

【0030】＜5段階評価＞

5点：非常に良い

4点：良い

* 3点：普通

2点：やや悪い

1点：悪い

【0031】＜判定＞

◎：平均点が4.5点以上

○：平均点が3.5点以上、4.5点未満

△：平均点が2.5点以上、3.5点未満

×：平均点が2.5点未満

* 【0032】

実施例1（弱酸性洗顔料 pH6.3）

配合成分

配合量（質量%）

N-ミリスチル-L-グルタミン酸カリウム	10.0
N-ラウロイル-L-グルタミン酸カリウム	10.0
スルホコハク酸ラウリル二ナトリウム	5.0
ラウリン酸カリウム	5.0
エルデュウCL-202（味の素社製）*1	1.0
ポリエチレングルコール1000	5.0
ポリエチレングルコール4000	5.0
ポリエチレングルコール20000	5.0
グリセリン	20.0
グリチルリチン酸二カリウム	0.1
カオリン	5.0
エデト酸二ナトリウム	0.1
クエン酸	適量
パラベン	適量
精製水	残余

【0033】*1：N-ラウロイル-L-グルタミン酸 ※【0034】

ジ（コレステリル・オクチルドデシル） ※

比較例1（弱酸性洗顔料 pH6.5）

配合成分

配合量（質量%）

N-ミリスチル-L-グルタミン酸カリウム	10.0
N-ラウロイル-L-グルタミン酸カリウム	10.0
スルホコハク酸ラウリル二ナトリウム	5.0
エルデュウCL-202（味の素社製）*2	1.0
ポリエチレングルコール1000	10.0
ポリエチレングルコール4000	3.0
ポリエチレングルコール20000	5.0
グリセリン	25.0
グリチルリチン酸二カリウム	0.1
カオリン	5.0
タルク	2.0
エデト酸二ナトリウム	0.1
クエン酸	適量
パラベン	適量
塩化ナトリウム	1.0
精製水	残余

【0035】*2：N-ラウロイル-L-グルタミン酸

【0036】

ジ（コレステリル・オクチルドデシル）

比較例 2 (アルカリ石鹸 pH 8.8)

配合成分

配合量 (質量%)

N-ミリスチル-L-グルタミン酸カリウム	3.0
N-ラウロイル-L-グルタミン酸カリウム	3.0
スルホコハク酸ラウリル二ナトリウム	1.0
ラウリン酸カリウム	2.0
ミリスチン酸カリウム	20.0
ステアリン酸カリウム	5.0
エルデュウCL-202 (味の素社製) *3	1.0
ポリエチレングルコール1000	5.0
ポリエチレングルコール20000	5.0
グリセリン	20.0
グリチルリチン酸二カリウム	0.1
カオリン	5.0
エデト酸二ナトリウム	0.1
パラベン	適量
精製水	残余

【0037】*3: N-ラウロイル-L-グルタミン酸ジ (コレステリル・オクチルドデシル)

【0038】
＜試験結果＞

試験項目

試験結果

	実施例 1	比較例 1	比較例 2
扱いやすさ	◎	◎	◎
水への溶けやすさ	◎	◎	○
泡の量	◎	○	◎
泡のきめ	◎	○	◎
泡のコシ	◎	○	◎
泡立ちの速さ	◎	○	○
泡立ちの持続	◎	○	◎
ぬるつき	◎	○	◎
きしみ感	◎	◎	△
つっぱり感	◎	◎	△
さっぱり感	△	△	◎
しっとり感	◎	◎	△
皮膜感	○	◎	◎

* 皮膚洗浄料は、きしみ感、つっぱり感がなく、皮膚への負担が軽微であり、また従来の弱酸性皮膚洗浄料の課題であった泡立ち、泡質についても大きく向上していることは明らかである。

【0040】実施例 2 (洗顔料 pH 6.7)

下記組成の洗顔料を常法により調製し、上記試験を実施したところ、泡立ち、泡質、及び使用感の全てにおいて優れた結果を示した。

【0041】

40

【0039】上記表に示すように、本発明のクリーム状*

配合成分

配合量 (質量%)

N-ミリスチル-L-グルタミン酸カリウム	10.0
N-ヤシ油脂肪酸アシルグリシンカリウム	10.0
ラウリン酸カリウム	2.0
スルホコハク酸ラウリル二ナトリウム	3.0
ポリエチレングリコール1500	10.0
グリセリン	20.0
1,3-ブチレングリコール	10.0

親油型モノステアリン酸グリセリン	2.0
モノミリスチン酸ポリグリセリル	3.0
ヒマシ油	1.0
エデト酸二ナトリウム	0.1
表1記載の香料	0.3
クエン酸	適量
パラベン	適量
精製水	残余

【0042】

* * 【表1】

香料処方			
成分	質量%	成分	質量%
ターピネオール	10.00	バニリン	2.00
ターピニルアセテート	2.00	エチルバニリン	0.10
セピオネート	80.00	ムスコン	0.50
メチルジヒドロジャスモネート	250.00	エチレンブラシレート	42.00
インドール	0.05	4, 6, 6, 7, 8, 8-ヘキサメチル-1, 3, 4, 6, 7, 8-ヘキサヒドロシクロペンタベンゾピラン	60.00
2-メチル-3-(3, 4-メチレンジオキシフェニル)-プロパノール	3.00	シクロペンタデカノリッド	20.00
ヒドロキシシトロネロール	20.00	アンブレットライド	1.00
ヒドロキシシトロネロール	10.00	γ-ウンデカラクトン	0.40
ローブチル-α-メチルヒドロシンナミックアルデヒド	35.00	γ-デカラクトン	0.10
4-(4-ヒドロキシ-4-メチル-ベンチル)-3-シクロヘキセン-1-カルボキシアルデヒド	75.00	4-(4-ヒドロキシフェニル)-2-ブタノン	0.50
3-メチル-5-フェニルペンタノール	20.00	ムスクエトン	0.10
フェニルエチルアルコール	10.00	スクアール	0.01
α-ヨノン	10.00	シスジャスモン	0.05
β-ヨノン	20.00	フェニルエチルアセテート	0.10
γ-メチルヨノン	10.00	システイン	0.20
ジヒドロ-β-ヨノン	25.00	γ-ノナラクトン	0.05
ベンジルサリチレート	150.00	α-サンタロール	0.20
シス-3-ヘキセニルサリシレート	30.00	β-サンタロール	0.20
オイゲノール	0.80	オイゲニルアセテート	0.10
シンナミックアルコール	5.00	α-ヘキシルシンナミックアルデヒド	20.00
シンナミックアルデヒド	0.50	α-ダマスコン	0.04
グアイオールアセテート	1.00	β-ダマスコン	0.02
グアイオール	0.50	β-ダマセノン	0.01
セドレニルアセテート	5.00	δ-ダマスコン	0.01
セドリルメチルケトン	30.00	ローズアブソリュート	0.50
6, 7-ジヒドロ-1, 1, 2, 3, 3-ペンタメチル-4(5H)-インダン	2.00	ローズオイル	4.50
ベチバーアセテート	10.00	サンダルウッドオイル	2.00
3-メチル-5-(2, 3, 3-トリメチル-3-シクロペンテン-1-イル)-ペンタン-2-オール	2.00	ラブダナムアブソリュート	0.05
2-エチル-4-(2, 3, 3-トリメチル-3-シクロペンテン-1-イル)-2-ブテン-1-オール	0.80	シストアブソリュート	0.01
イソボルニルシクロヘキサノール	35.00	ベチバーオイル	0.50
ヘリオトロピン	10.00	ガヤックウッドオイル	0.10
ケマリン	2.00	合計	1000.00

【0043】

【発明の効果】 上述したように、本発明のクリーム状皮膚洗浄料が、皮膚に対してマイルドで、しかも優れた起

泡力、泡質を有し、且つ使用感に優れることは明らかである。